第１５回 水の都とやま取材の旅

特別企画

参加記者・カメラマンによる座談会
「水の都とやまを語る」

★「水の都とやま取材の旅」とは…

幣誌発行人中村孝一が企画し、1996年より毎年開催している「富山合同取材会」である。全国の情報誌を毎回10誌招待し、富山市中心部をメインに観光スポットをガイドし、各誌(紙)の記者並びにカメラマンに取材してもらい、各メディアにて富山の魅力を紹介してもらう企画である。本企画は今年で15回目を迎え、今回で延べ170誌に参加頂いた。

※今回の主な取材箇所

- ・富山第一ホテル
- ・富山観光遊覧船
- ・富山市郷土博物館
- ・月世界本舗
- ・梅かまミュージアムU-mei館
- ・池田屋安兵衛商店
- ・中央通り、総曲輪通り
- ・いきいきKAN
- ・ますのすし せきの屋
- ・富山城、県庁、市庁舎

出席者

五十音順・敬称略

司会／中村孝一
（月刊グッドラックとやま発行人）

Cityかまがや（千葉県）
赤羽 登美子

旬刊旅行新聞（東京都）
飯塚 小牧

cocola（新潟県）
池田 美由紀

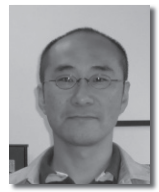
ファミール（福井県）
片岡 明子

まっぷる富山（東京都）
菊地 由香

Cityかまがや（千葉県）
木下 千鶴子

フロンティアエイジ（大阪府）
木下 二二男

マイ奈良（奈良県）
清水 信夫


womo（静岡県）
志水 竜一

cocola（新潟県）
高波 嘉子

週刊長野（長野県）
竹内 大介

ニュースせんなん（大阪府）
藤田 純子

Cityかまがや（千葉県）
萬年 康子

中村　2日間の「水の都とやま」取材の旅でしたが、感想やご意見をお聞きかせください。

赤羽　千葉から参りまして、今回案内していただいた観光名所やお店は、どこも大変楽しく回らせていただきました。近々私たちでバスツアーを企画しているのですが、ぜひ「水の都とやま」を企画して、もう一度富山に参りたいと思いました。

　松川遊覧船でのディナークルーズは、屋根がなく開放感があってとても良かったです。実は街を歩いてもゴミがほとんど落ちていないことに驚いていたのですが、そのせいか川もきれいでしたね。

萬年　富山のいろんなところを見せていただいて、すごく楽しかったですし、とても勉強になりました。特に夜のディナークルーズは素晴らしかったです。目の前でバイオリンの生演奏を聴きながら、富山のおいしい料理をごちそうになって、最高に幸せでした。

木下（千）　昨日は何度も船に乗せていただきましたが、本当に富山は「水の都」だなあと実感させられました。新緑も美しかったですね。

　川べりにある彫刻が、船からもっと見やすいといいですね。せっかくあれだけの数があるのに、もったいないかなと…。

中村　あの彫刻は遊覧船が出る前に設置され、その後、船から見えるようにしてほしい、という要望が多いのですが、まだ実現していません。これからも当局に働きかけていきたいと思います。

木下　私は大阪から参りましたが、松川は神通川の名残りで、船で上り下りするにはちょうどいいスケールですね。桜の頃には花びらが頭から降ってきそうな感じですし、春にまた来てみたいなと思いました。また、富山は幹線道路が広くて羨ましいですね。戦災後の都市計画により、このように路面電車を環状線にしたり、自転車サービスを行うことができる土壌があったんですね。

清水　奈良は、今年、平城京遷都1300年で盛り上がっておりますが、平城京は75年くらいで終わっているんです。その原因の一つは、下水をうまく処理できず、堀を作って水運はやったんですが、結局そこが汚れてしまって疫病が流行り、都を捨てざるをえない状況になったことです。

　そのような観点から見ますと、富山は長期の視点で自然を生かした街づくりに取り組んでおられ、それが現在の美しい景観に表れていると思います。

　松川も遊覧船で巡るとなると、川をきれいにしなければならないというふうに、住民の意識もすごく高まることになりますし…。

▲池田屋安兵衛商店で、富山の薬の歴史を説明する池田社長

▲「梅かまミュージアム」にて、奥井社長からかまぼこの説明を受ける取材記者、編集者たち。

中村　松川べりの桜は、大正時代に植えられていたのが、戦災でほとんど燃えてしまい、戦後すぐに市民が桜の川にしようと約500本の木を植え、今の美しい木立を作り出しているわけですが、街はそこに住んでいる人が本気になって創っていくことでどんどん美しくなると思います。

　最近は世界各地からお客様がいらっしゃって松川遊覧船に乗られるんですが、イタリア・ベニスや、オランダ・アムステルダムの方などが見えられると、自分達の街に来たようだと…。富山もいよいよ有名都市の仲間入りをしてきたのかなと、喜んでおります(笑)。

藤田　私は、今回初めて大阪から富山へ参りました。今まで全く富山とは接点がなく、富山と言えば〝薬〟ぐらいしか思い浮かばなかったというのが正直なところです。

　すがすがしい新緑の季節だというのもありますが、きれいな街だなというのが第一印象。ごみごみした感じがなく、都会的なのに自然がいっぱいで、暮らしやすそうだなと思いました。

　昨日からの取材で、富山の歴史があって、先人たちの知恵の中から生まれてきた食文化がたくさん伝わっていることを感じました。

　今回、富山の良さをどのように誌面でお伝えしていこうかと考えながら、自分の住んでいる街の良さは意外に見えていなかったり、気づかなかったりするものだなと思いました。

志水　私の地元の静岡は徳川家康が城を築いたところで、安倍川という川が流れております。この川が、以前の神通川のように街中をうねうねと流れていたそうですが、氾濫して住みにくいということで、治水のため、街中を川が走らなくしてしまった。

　富山に来て感じたのは、富山の方は昔のものを大切に残されているんだなということ。静岡では川の流れが完全になくなっているので、その歴史が後世に伝わりにくい。旧神通川を松川というかたちで残しておられるのを見て、富山には素晴らしい見識を持たれた方がいらっしゃったのだなと思いました。

竹内　長野から参りましたが、今回の取材で、神通川を埋め立てたところに県庁を作ったり、大きな通りを大局的な視点で作ったりという、富山の街づくりの視野の大きさをすごく感じました。また、昨日から松川べりで遊覧船に乗ったり、ディナークルーズを楽しんだりと、多くの時間を過ごさせていただいて、「水と緑の都」という印象を強く受けました。

　けれど、川べりを歩いておられる市民の方が少ないですね。川沿いにちょっとしたお店や、楽しくなるようなスポットを設けて、市民や観光客がそぞろ歩きされるような空間に

▼月世界本舗では、「月世界」、「まいどはや」を試食、「月世界」誕生のエピソードを聞く記者たち。

なるといいですね。

高波　お隣の新潟県から来ましたが、富山が『水の都』というイメージはこれまでありませんでした。ですが、今回の取材の旅で、本当に「水の都」だなと。中村社長の郷土への熱い思いに、だいぶ洗脳された感もありますが（笑）、このように一人ひとりが情熱を持って発信していくことが大事なのではと思います。

　女性の観点から言うと、遊覧船から見たサギがとても可愛かったです。近づいても全然驚かないんですね。名前を付けたりして可愛がると、観光の目玉として一役買ってくれるかもしれませんね。

菊地　私は東京から参りました。4年前、ベニスに行ったのですが、まさに水の都。満潮のときは水没するんです。富山に来て松川で遊覧船に乗ると、ベニスに比べ木や芝生が手の届く範囲にあり、ヒューマンスケールさが良いと思いました。

　取材で訪れる街では、観光客の目線で見るのですが、富山はきれいすぎるかなと。観光客が集まる街というのは一本の通りにいろんなお店が集まっていて、地元の人の顔が見えるなど、ごった煮のような場所があるんです。

　松川の整然としてきれいな河畔に、地元の人の顔が見えるような、「川の街」を組み込んでいただくと、賑やかになって楽しくなるのではと思います。

池田　今回、特に印象深かったのは遊覧船と路面電車。新潟ですので、富山に年に数回来ていましたが、富山に路面電車があることも知りませんでした。

　松川遊覧船でのディナークルーズは、旅に来ているなという実感がわき、とても楽しかったです。こちらに来る前は、「水の都とやま」というと、海ときれいな水をイメージしていたのですが、富山市内中心部が「水の都」だったことがわかりました。

　この取材の旅では、新しい発見がたくさんあり、ぜひ友達にも紹介したいと思います。

せきの屋の工場見学では前川社長より説明を受ける▶

▲松川遊覧船でのディナークルーズで、生演奏を聴きながら「水の都とやま」を堪能する記者達。月世界の吉田社長が歓迎の挨拶を述べ、大森公男さんがバイオリンで「荒城の月」を演奏。

飯塚　東京から来まして、富山は初めて。観光業界にいるものとして、そちらの目線で見てみますと、中村社長は松川を〝東洋のベニス〟と言っておられますが、比較するより独自の売りが大切。松川遊覧船はとても素晴らしく、全国いや世界にも十分アピールしていける観光素材だと思います。

片岡　私は福井から来ましたが、これまで富山へ行くとしても砺波のチューリップフェアぐらい。福井から富山市に観光に行かれる方は少ないと思います。

　今回の取材の旅で、松川遊覧船をはじめ富山市内の魅力をたくさん知りました。特に松川は「水の都とやま」のシンボルになっているんですから、**松川を見たら、常に遊覧船が走っている**という風になるといいですね。観光客がもっと気軽に来れるように、これからも情報を発信していただけたらと思います。

中村　皆様方の記事を通して、「水の都とやま」の魅力が各地に発信されますことを、大変嬉しく思っています。貴重なご意見、まことにありがとうございました。GL